

スライド 1

皆さんこんにちは、私はジョシュ・ジャクソンと申します。今日は日米の自動販売機に対する見解の相違についてお話しします。

スライド 2

これがこの発表の概要です。

スライド 3

なぜ、この研究テーマにしたかという、留学で日本に住んでいる間、日常生活において自動販売機は大切な物だったからです。

アメリカに帰ってきてから、アメリカの自動販売機の不便さを実感し、この研究をつうじて、自動販売機の使い方と文化を調査したいとおもいました。

スライド 4

私の研究質問は

- 1 日本とアメリカの大学生の日常生活においてどのように自動販売機を見ているのか。
- 2 日本とアメリカの大学生は自動販売機を使用する際どのようなインタフェースを好みどのようなお金の支払い方法を好むのか。の以上です。

スライド 5

研究の背景はこの順序でお話しします

スライド 6

世界で一番初めに創られたとされている自動販売機は、1世紀にアエギュプトゥスのアレクサンドリアのヘーローンで、コインの重量で聖水を販売した時の物だそうです。

スライド 7

アメリカでは1888年に、トーマス・アダムスがトゥッティフルッティと言うチューインガムを自動販売機で売り始めました。これは客を引き付けるために駅の乗降場に置かれ、アメリカで最初に自動販売機で利益を得た機械として知られています。

スライド 8

日本での最初の自動販売機は1904年、切手とはがきを販売したものです。

スライド 9

つぎに今の自動販売機についてお話しします。現在日本では約380万台、アメリカでは690万台の自動販売機があります。日本での2014年の自動販売機の収益は480億円で、2013年のアメリカの収益は427億円でした。人口や国土面積を考慮した普及率では、日本が世界一と推測されます。

スライド 10

日本には多くのユニークな自動販売機があります。たとえば日本でのお酒や、カップヌードルや、傘などの自動販売機があります。アメリカでは高いエレクトロニクスの自動販売機DVDレンタルの自動販売機があります。

スライド11

次に、日本の温かい、または冷たい飲み物を扱う自動販売機です。自動販売機はただの大きな冷蔵庫ですが、様々な飲み物を販売することができます。缶コーヒーが人気ですが、以前は自動販売機では冷たい飲み物だけが販売されていました。1972年に「ホットオアコールド式自動販売機」が作り出されました。現在温かいのと（スープ類も含む）冷たい飲み物の両方が販売されています

スライド12

このスライドでは、日本でのたばこtaspoについてお話しします。2008年からたばこ自動販売機でのICカード式 成人識別システムであるTaspo (たばこアクセスパスポート) が未成年者の喫煙防止対策のために導入されました。現在、98% の日本のたばこ自動販売機が taspoを使っています。TaspoはNFC (Near Field Communications)を搭載しているため、スワイプせずに、カードをタッチするだけで使用可能です。

スライド13

ここでは、現金での決済についてお話しします。日本通貨には主に7種類の硬貨と3種類の紙幣があります。アメリカ通貨には4種類の普通の硬貨と6種類の紙幣があります。この表から、アメリカの硬貨より日本の硬貨が価値があることがわかります。

スライド14

次に、日本のキャッシュレスでの決済についてお話しします。日本の自動販売機で人気なキャッシュレス決済方法は、NFC (Near Field Communications 近距離無線通信) で、カードをスワイプする代わりに、支払いに携帯電話を使うことができます。2001年、JR東日本は電車の切符をより速く販売するために、NFCのSuica カードを導入しました。後にこれが電子マネーカードの普及につながりました。おサイフケータイというのは携帯電話をNFCカードとして使うことができる機能を指し、2004年に開発されました。（例えばクレジットカードやSuicaなど）3750万人のdocomoユーザー(65%総加入)はNFCを搭載したデバイスを持っています。

スライド15

アメリカのキャッシュレスでの決済についてお話しします。2013年に販売を高めるためにクレジットカードとNFCを使用できる自動販売機が導入されました。なぜなら、現金決算の平均は116円ですが、キャッシュレス決算の平均は171円と言うことがわかったからです。2015年の年末、AppleとCoca-Colaが共同で10万台ものNFCを利用できる自動販売機を作ることを発表しました。1月からUSA technologiesは20万台の既存の自動販売機で、Apple PayでのNFC決済を利用できるようにしました。

スライド16 研究方法

これがこの発表の研究方法です。合計で62人のアメリカ人と日本人の大学生がこの研究に参加してくれました。内訳は、30人のアメリカ人と30人の日本人でした。

17 研究質問1

これから、研究質問1についてお話しします。研究質問1は「日本とアメリカの大学生の日常生活においてどのように自動販売機を見ているのか。」でした。

スライド18

今までにどんなタイプの自動販売機を使ったかについて、50%以上の人がこの自動販売機のタイプを使ったと答えました。日本は飲み物とガチャ（おもちゃ）とスナックと食事が人気です。アメリカは飲み物とスナックとスイーツ（甘い物）とDVD レンタルが人気です。

スライド19

日常生活の中で、自動販売機で使用するトップ3としてあげられたのは、日本もアメリカも飲み物が1位、スナックが2位で3位が日本はチケット、アメリカはスイーツでした。

スライド20

自動販売機を使う頻度は、67%の日本人が1週間に1回以上使うということがわかりました。一方78%のアメリカ人は、数ヶ月に1回使うか全く使わないと答えました。

スライド21

日本人の学生の大部分はアメリカ人の学生より多くブランドのソフトドリンクとお茶やコーヒーにお金を使っています。

スライド22

次に自動販売機の数についての意見を聞きました。47%のアメリカ人は自動販売機の数を増やしたいと思っており、73%の日本人は今のままの数でいいと思っています。

スライド23

次に「自動販売機は使いやすい」かについて「あなたは、次の項目にどの程度同意しますか」という質問をしました。100%の日本人と96%のアメリカ人の答えは両方のグループが大体同意するというものでした。

スライド24

様々な種類の商品が手に入ることについて、両方のグループの60%以上の学生が同意しています。

スライド25

自動販売機は、商品の販売に関して信頼性があるということについて80%の日本人と、59%のアメリカ人が同意しています。

スライド26

自動販売機は現金を使うことに関して信頼性があるかということについて、日本の自動販売機は80%同意することができ、アメリカでは50%同意することができるとのことでした。

スライド27

自動販売機はクレジットカードやデビットカードを使うことに関して信頼性があるかということについて、日本の自動販売機は43%が同意しないと答え、アメリカでは22%が同意しないと答えました。

スライド28

「あなたの買いたい商品の自動販売機がお店の外にありますか、その店でも同じ商品を販売しています。あなたはどちらから購入しますか。」という質問に対し、日本人の大部分は「お店」と答えましたが、アメリカ人の大部分は「自動販売機」とこたえました。

日本の大学生の1番多かった理由は「より安い」からです。一方アメリカの大学生のトップ3の理由は「列がないから、「より安い」からと、「より早く買える」からでした。

スライド29

ここで研究質問1のまとめです。アメリカ人の大学生より日本人の大学生のほうが自動販売機をより使用します。日本人の学生の大部分は、アメリカ人の学生より多くお金を使います。日本の自動販売機はより信頼性があり、日本人よりアメリカ人は、クレジットカードやデビットカードを信頼しています。カランとギルブレスの本にあるように「人と話さなくてもよいので自動販売機を使う」と言うのは真実ではないかもしれません。

30 研究質問2

これから、研究質問2についてお話しします。

研究質問2は「日本とアメリカの大学生は自動販売機を使用する際どのようなインタフェースを好みどのようなお金の支払い方法を好むのか。」でした。

スライド31

自動販売機で一番よく使う支払方法については、両方のグループの大部分が現金を使うと述べています。

スライド32

将来的にはどのような支払い方法を使いたいですか、というの質問には、両方のグループの大部分は現金を使いたいと答えましたが、現金以外を使いたいと考えている人もいます。

スライド33

「普段現金を持ち歩いているか」という質問について、97%の日本人が「いつも」と答えました。また、62%のアメリカ人がたいてい現金を持ち歩いていません。これは興味深いことだと思えます。

スライド34

次はアメリカで現金を持ち歩くのに快適に感じる金額についてです。75%のアメリカ人の快適に感じる最低額は500円以下で、44%は全く持たなくても大丈夫だと答えました。65%のアメリカ人の快適に感じる最高額は2000円から5000円までと答えました。

スライド35

日本で現金を持ち歩くのに快適に感じる金額について、90%の日本人の快適に感じる最低額は500円から2000円までです。また76%の日本人の快適に感じる最高額は2000円から5000円まででした。

スライド36

「おサイフの中で現金の代わりに使えるカードは何枚あるか」という質問では、ほとんどの人は現金の代わりに使えるカードを持っていると答え、大部分のひは1枚から3枚もっています。

スライド37

「決済手段はどれくらい便利か」というランクとしてあげられたのは日本の現金とアメリカのデビットカードが1位、両方でクレジットカードが2位、3位が違って日本はICカード、アメリカは現金でした。

スライド38

~~これはおサイフケータイの使用状況を表したグラフです。便利さについて日本人もアメリカ人も便利だと考えますが、実際はあまり使っていないようです。~~

スライド39

最後に、次の写真を比べて、どちらが視覚的に魅力的かつ機能的か選んでくださいという質問をしました。

スライド40

第1のペアはほとんどの日本人とアメリカ人が日本の自動販売機が最も視覚的に魅力的かつ機能的だと答えました。

スライド41

第2のペアもほとんどの日本人とアメリカ人が日本の自動販売機がのほうが魅力的だと答え、

スライド42

最後ペアもほとんどの日本人とアメリカ人が日本の自動販売機がのほうがいいという結果がでました。

スライド43

ここで研究質問2のまとめです。両方のグループは自動販売機で現金をよく使いますが、日常生活で現金のみに頼るだけではないようです。日常生活の中で日本人の大学生は現金がより便利だと答えました。アメリカ人の大学生はクレジットカードやデビットカー

ドが現金と同じくらい便利だと考えています。日常生活で日本人の大学生の方が現金を持ち歩いていたいと思っていて、将来的にアメリカ人は現金を使わない支払い方法を考えています。どちらの回答者も日本の自動販売機が魅力的かつ機能的であると考えています。

スライド44

結論です、アメリカ人より日本人は自動販売機をよく使うことがわかりました。しかし、選択肢を与えれば日本人はよりお店から買います。大体の大学生は自動販売機に良いイメージを持っていますが、日本の自動販売機は顧客に信頼性だけではなく、視覚的にも魅力的でサービスを提供するために優れています。NFCは大体使われません。日本人の大学生の現金文化が強く、将来も日本人は、現金を使い続け、アメリカではおそらくキャッシュレスになるでしょう。日本人がより自動販売機を使う理由は、硬貨1枚で購入できるからという利便性があるからだと思います。

スライド45

研究における限界点はサンプルの規模が小さいかうたので結果を一般化することは難しいです。また参加者が主にCSUMBと岡山大学の学生からに限られている点とNFCインフラとICカードがアメリカではあまり普及されていないことも問題でした。

将来の研究課題として

現金の持ち歩き（重さと質）、現金を引き出す利便性（ATMとキャッシュバック）を調査したいと思います。アメリカと日本の田舎と都市の自動販売機の使い方も比較してみたいです。